

2020 年 1 月 29 日

2019 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究論文

論文題目

LGBT 当事者にとっての働きやすさの考察

How Can We Realize Work Places Where LGBT People Work
Comfortably - A Discussion.

18MN017

宮下 茜

論文要旨

〔目的〕本研究の目的は、LGBT 当事者にとっての働きやすさを考察し、これによって、就労の場における LGBT 当事者への関わりの在り方への示唆を得ることである。

〔方法〕本研究は、質的記述的研究である。4 名の LGBT 当事者にインタビューガイドを用いて半構成的面接を実施し、分析した。なお、本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した（承認番号:19-A052）。

〔結果〕LGBT 当事者に対するインタビューの内容を分析した結果、LGBT 当事者にとっての働きやすさには、《LGBT に関する周囲・環境への認識》、《LGBT に関する自己認識》、《仕事に対する認識》、《LGBT に限定しない職場の土壌》の 4 つの要素が相互に関連しあっていることが示唆された。働きやすさに繋がる要素として、周囲・環境については、【見た目で人となりまで認識されることなく理解されていると感じられること】、【男女の 2 つの性しかないという認識が無くなること】、【表面化されにくい特性を理解されていると感じられること】、【性的指向・性自認は固定されるものではなく変化していくものであることが理解されていると感じられること】、【当事者以外が LGBT への抵抗感がないと感じられること】、【特別扱いされることなく当たり前に接してもらうこと】が求められ、LGBT に関して理解されていると LGBT 当事者が感じられること、LGBT 当事者自身の《LGBT に関する自己認識》では、【自分を否定しない人の存在を感じられること】、【LGBT が理解され緊張感なく安心して働けること】、【カミングアウトを避けるための緊張感やストレスを抱かなくても良いこと】で安心感を抱くことや、【性に関する話題を避けることがなくなり人間関係を円滑に築けること】、【性についてただ話せること】、【社会や組織に決められた性役割に従わなくても良いと思えること】で【嘘や違和感なく自分らしくいられること】、《仕事に対する認識》に関しては【自分自身の価値観を社会の中で表現できること】、【自分が望む通りに働き続けられること】、【仕事にやりがいを感じることで働く意欲が増すこと】、【当事者としての経験を発揮し社会に貢献していけること】が示された。また、《LGBT に限定しない職場の土壌》は、他の 3 つの LGBT に関する周囲・環境、LGBT に関する自己及び仕事に対する認識をより高められる可能性があると考えられた。さらに、LGBT に関連のない要素も多数見受けられ、それらは LGBT に限定しない全ての労働者にとっても共通の働きやすさに繋がる要素であることが示唆された。

〔結論〕LGBT 当事者への関わりの在り方については、結果で得られた 4 つの要素を踏まえ、職場において安心感や自分らしさ、やりがいを得られるような関わりや、LGBT 当事者の周囲や環境から LGBT 当事者が理解を得られていると感じられるような関わりが重要であると考えられた。